

ホタル養殖の目標

町ホタル専門員 若山 志玄

今年度の目標の一つ目は「ホタルを頂点とする食物連鎖を養殖場内だけで完成すること」です。ホタルの成虫は歌にあるように水をなめるだけです。その前の蛹さなぎの時は変態をするのみです。成虫と蛹のエネルギーの源はすべて幼虫の十月月の間にどん欲に食べた「モノアラガイ・カワニナ・タニシなど」の貝です。この貝は植物などを食べます。今までの実験で、水槽の貝のエサとしては、パセリが一番好きようです。二番目はレタスです。自然界での淡水の貝の食料は、藻もや枯葉などですが、養殖場では水質が悪化するのために使えません。今は水生植物のセリを栽培しています。何が良いか模索中です。



養殖場のセリ

五月二十一日の新聞に「自然界で四十三年ぶり・コウノトリのひな誕生」とあり、コウノトリの親とひなが野生で自立して生活していくには、「湿地の確保・無農薬農法などの環境整備に課題」とありました。阿久比町では「ホタル分布図」が自然環境の保全の尺度だと言えらると思いません。

五月には、終齢になった幼虫を養殖場へ放流しましたが、自然界のホタルの増殖のためには、次の条件を満たさず水辺に十一月ごろに放流するのが理想です。そして「ホタル分布図」が緑色いっぱい塗られると素晴らしいです。

エサとなる淡水の貝が生息・繁殖している。良好な水質である（洗剤や農薬に汚染されていない）。溶存酸素が十分ある。産卵できるコケ（植物）がある。中州や土堤（蛹になる場所）がある。人工照明がない。（橙や赤の光は無害）

以上のように自然が豊かでホタルの放流に適した場所は、人にも優しく住み良い環境だと思います。こんな水辺に幼虫を放流するためには、一万匹以上の幼虫を養殖することが必要条件です。幼虫一万匹が二つ目の目標です。

板山高根湿地「自然観察会」 参加者を募集

阿久比町の板山地区にある板山高根湿地は珍しい昆虫や貴重な植物が生息・生育する、知多半島でも貴重な自然環境が残っています。

普段、一般公開は行っていませんが、板山高根湿地「自然観察会」を開催し、限定2回の観察会を行います。

各回、専門の先生が解説をします。この機会に阿久比に残る貴重な湿地を見学しませんか。



食虫植物のモウセンゴケ



ハッチョウトンボの雄
体長約2cm、小指の先程度の大きさ

- 第1回 「日本最小のトンボ・ハッチョウトンボと
食虫植物のモウセンゴケを観察しよう」
日時 7月20日(金) 午前9時～(約2時間を予定)
- 第2回 「絶滅危惧種 シラタマホシクサを観察しよう」
日時 9月26日(水) 午前9時～(約2時間を予定)

対象 興味のある方
定員 各回25人(定員を超える場合は抽選とします。)
場所 各回とも中央公民館本館1階ロビーに集合(マイクロバスで現地まで移動します。)

参加費 無料 申し込み期限 7月10日(火)
申し込み・問い合わせ先 社会教育課 ☎(48)1111(内262)



過去に行われた観察会の様子